

「おにぎりや竹とんぼは
買うもんじゃあないんだ
自分で作るべきなんだよ」

この言葉に込められた思いと合わせて
秋岡さんが残した言葉の中でも
印象的なひとつです

晩年 いたるところで作り続けた
竹とんぼの数は数千機
それらには
ひとつとして同じものはなかったといえます

なぜここまで作り続けられたのか
ただ単純に「楽しかったから」と
秋岡さんは答えています

今月のあれこれでは
秋岡さんが夢中になった「竹とんぼ」について
置戸町との関連からご紹介していきます



作るのが面白くて
もったいなくて
子どもの遊びになんか
しておけないさ



きほんのおはなし

秋岡さんが還暦を迎える 1980 年頃から作り始められた竹とんぼ。
1982 年には国際竹とんぼ協会を発足。全国大会を開催するほどでした。
生涯で製作した竹とんぼの数は 8,000 機ともいわれます。
そのうち置戸には 165 機の竹とんぼが寄贈されています。



人と、木と、おけと



秋岡さんと竹とんぼ - 置戸編 -

1980 年 (S55)	竹とんぼ作り開始
1982 年 (S57)	国際竹とんぼ協会発足 ◎秋岡さんが顧問を務め木工塾のメンバーが主な会員となっていた

◎秋岡さんは工業化社会の中で失われていく手の技、特に日本の木工技術に注目し、未来へ残すことをライフワークとしていました。竹とんぼ作りも同じ手を動かすモノづくり。
「世界中で手の復権を！」が国際竹とんぼ協会のねらいでした。

1993 年 (H5)	9 月 全国竹とんぼ競技大会 in OKETO 22 日 竹とんぼフォーラム 23 日 競技大会…3 種目競技 1) 高度 2) 滞空 3) 距離を競う ※工芸館では竹とんぼの展示も開催
1997 年 (H9)	4 月 秋岡芳夫さん逝去 1 2 月 秋岡コレクションが寄贈される ⇒一括寄贈に伴い竹とんぼ 165 機も寄贈される

全国竹とんぼ競技大会 in OKETO

開催資料参考

◎置戸でもオケクラフトサロンなどで秋岡式竹とんぼを普及していた秋岡さん。オケクラフト 10 周年記念事業の一環として、秋岡さんが顧問を務めていた国際竹とんぼ協会の「**全国竹とんぼ競技大会 in OKETO**」を北海道では置戸で初めて開催しました。当日は全国各地から 80 名程の参加者が集い、秋岡さんも選手として参加しました。

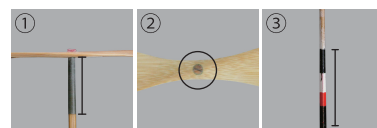


竹とんぼの特徴 (置戸町収蔵資料より)

秋岡さんが作る竹とんぼには、大人の遊びとして楽しむために施された、いくつものこだわりが細部に見られます。

【軸への細工】

- ① 絹糸で補強
- ② 軸同士の貼り合わせ
- ③ カラーコード



2〜3 色程度の着色の配置によって製作年が判別できるようになっている
※回転時の負荷に耐えるため、①のように補強をし、②のように背合わせに接着した二枚合わせの軸を作る等の工夫がされた。

【素材へのこだわり】

◎竹の強度と曲がり強さ、自然の曲線と厚みが活かされている。その他、補強やおもりとしての役割に木材・金属・紙・布などが使用されるが、そのどれもが意匠的にも工夫されている。



株式会社山海堂「竹とんぼ夢中人」参考

【竹とんぼの意匠】

◎どんなものを作ろうか、頭で考えて設計図をひいたり、同じものを作ることをせず、手が思うままに作られた竹とんぼには、一つとして同じものはありませんでした。生み出されたいくつもの竹とんぼには、結果として命中型や垂直上昇型など、個性豊かな特徴が見られます。
◎秋岡さんが大人の遊びとして楽しんだ竹とんぼ作りは、「**大人の思考と嗜好のトレーニングの形**」と表されています。
◎置戸町に寄贈された 167 機の竹とんぼは、「日本の手仕事道具 - 秋岡コレクション 第 28 集 秋岡作品 竹とんぼ」に掲載。

